



六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.39
六甲山における
防災活動/後藤宏二
2006年6月発行

第39回テーマ:

六甲山における 防災活動



神戸港から見た六甲山系

講演内容

- ①土砂災害の歴史
- ②六甲山における土砂対策
- ③緑を守り、緑を育てる
グリーンベルト整備事業

実施日:平成18年6月17日(土)

午後1時～3時45分

場所:六甲山自然保護センター内
レクチャールーム



講師:後藤 宏二さん

プロフィール

昭和56年、建設省。沖縄開発庁や高知県中村市助役、中部地方整備局多治見砂防国道事務所長を経て、平成18年4月、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所長に就任。

モリアオガエルのカップルを発見!

講演前の朝、六甲山は風が強く寒々しい天気でした。ボランティア活動をしている散策道の脇にあるため池をのぞくと、モリアオガエルが産卵していました。木の上を見上げると白い泡の固まりがいくつもぶら下がっており、「あんな高いところまで登るなんてすごい」と感動の声が上がりました。いつも静かな散策道ですが、今日ばかりはカエルの鳴き声で賑やかでした。



モリアオガエルのカップル(池の中)

危険と隣り合わせの六甲山

午後は28名の参加者が集まりました。6月は土砂災害防止月間ということで、六甲砂防事務所長の後藤宏二さんに講師をお願いしました。後藤さんは午前中のボランティア清掃にも参加してくださいました。

講演では、六甲山の土砂災害の歴史や様子を紹介いただき、現在進められている砂防事業についてお話いただきました。土石流をくい止める砂防ダムの建設や溪流工事、阪神淡路大震災を契機にはじまった「六甲山系グリーンベルト整備事業」など、どれも私達の生活と密接する内容でした。

自助・共助・公助が大事

災害を回避するには、自分で助ける「自助」、コミュニティで助け合う「共助」、公的機関からの「公助」が重要であることを学びました。六甲山系は、土砂災害がおりやすい地形や地質、気候などの自然条件を備えていることを再認識しました。防災意識の必要性を感じました。

交流会で会の運営を検討した

講演後の交流会では、記念碑台周辺散策コースを整備する活動を紹介しました。市民セミナーの運営をはじめ、会員の方々に積極的に加わっていただく方策を話し合う場にしました。

※詳しくは、1. 2ページをお読みください。

参加の感想 板脇 道雄さん

中学時代に黒四ダムの「黒部の太陽」を見て土木屋に憧れ土木工学科へ進み、卒業研究はダムを専攻しました。就職は橋梁屋になりましたが、今日のお話で学生時代に勉強したこと思い出しました。また、昭和42年の水害では、ちょうどあの日所属していた「山の会」の夏合宿前のトレーニングの日で通常なら雨でも山に入りますが、あまりに激しい降りでリーダーが中止しました。その後、五助ダムの背面が土砂に埋まったのには驚きでした。防災の重要性を再認識し、グリーンベルト事業の「HAT-Jの森づくり」に益々力を入れたいと思います。



主催:六甲山自然保護センターを活用する会

協力:兵庫県立人と自然の博物館

後援:兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

(財)大阪コミュニティ財団(東洋ゴムグループ環境保護基金)、コベルコ環境保全基金、ひょうご環境保全創造活動、コープこうべ環境基金